

|     |     |    |      |
|-----|-----|----|------|
| 教科名 | 情報科 | 校種 | 高等学校 |
|-----|-----|----|------|

| 科目の配当 |       |     |    |                |
|-------|-------|-----|----|----------------|
| 学年    | 科目名   | 必・選 | 単位 | 授業展開など, 授業の形態  |
| 1年    | 社会と情報 | 必   | 2  | TT (チームティーチング) |
| 2年    | 情報選択  | 選   | 2  | TT (チームティーチング) |
| 3年    |       |     |    |                |

|           |                                 |     |   |          |    |
|-----------|---------------------------------|-----|---|----------|----|
| 科目名 (教科名) | 社会と情報 (情報科)                     |     |   |          |    |
| 担当教員      | K1A岡本弘之/K1B坂東永智/K1CD平尾三和子+瓶割 浩司 |     |   |          |    |
| 学年        | 1                               | 単位数 | 2 | 必修・選択・展開 | 必修 |

### ■ 授業の目的

1. 情報を活用するための知識と技術の習得を通して、情報に関する科学的な見方や考え方を養う。(思考・判断・表現、技能)
2. 社会の中で情報および情報技術が果たしている役割や影響を理解させる。(知識・理解)
3. 情報社会の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。(関心・意欲・態度)

### ■ 授業計画

| 学期       | 授業の項目  | 内容  |
|----------|--|---|
| 1<br>学期  | 1. 情報の活用と表現<br>(1) 情報とメディアの特徴<br>(2) 情報の表現と伝達<br>(3) 情報のデジタル化<br>※プレゼンテーション  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報・メディア・表現メディアの特徴について、実習を通じ理解させる</li> <li>・情報の表現と伝達・組み立て・統合について、実習を通じ理解させる</li> <li>・アナログとデジタル・コンピュータによる情報の取り扱いについて実習を通じ理解させる</li> <li>・実際にプレゼンテーションを企画・発表させる実習を通じ理解させる</li> </ul>            |
| 2<br>学期  | 2. 情報通信ネットワークとコミュニケーション<br>(1) コミュニケーションとメディア<br>(2) 情報通信ネットワークの活用とコミュニケーション<br>(3) 情報通信ネットワークのしくみ<br><br>3. 情報社会を構築するために<br>(1) 情報化が社会に及ぼす影響と課題                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの発達・形態、メディアリテラシーについて実習を通じ理解させる</li> <li>・インターネット上のコミュニケーションについて実習を通じ理解させる</li> <li>・情報通信・コンピュータネットワークについて実習を通じ理解させる</li> <li>・Webページで情報を発信する際のマナーやルール(著作権・情報モラル)について理解させる</li> </ul> |
| 3<br>学期  | (2) 情報社会における情報システム<br>(3) サイバー犯罪とセキュリティ<br>※マルチメディア実習<br><br>(4) よりよい情報社会を目指して   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学生への情報モラルプレゼンテーション制作を通して、サイバー犯罪・セキュリティなど情報社会の課題について理解させる</li> <li>・アニメーションの制作・音楽のデジタル化について実習を通じて理解させる</li> <li>・「私のメディア史」制作を通じ、自分と情報メディアとの関わりについて振り返り、メディアリテラシーを高める</li> </ul>               |
| 評価の方法と割合 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●評価方法：定期試験は行わず、実習の中の下書き・企画書・レポート・発表・作品などに評価観点を設け、評価を行う。(生徒による相互評価も参考とする)</li> <li>●割合：ワークシート・レポートの記入・発表・作品と授業参加態度で総合評価する</li> </ul> |   |
| 教科書・副教材等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>●教科書：「新・社会と情報」日本文教出版</li> <li>●副教材：適宜プリントを配布する</li> </ul>   |   |

|           |               |     |   |          |    |
|-----------|---------------|-----|---|----------|----|
| 科目名 (教科名) | 情報選択 (情報科)    |     |   |          |    |
| 担当教員      | 岡本 弘之 ・ 濱口 昌紘 |     |   |          |    |
| 学年        | 2             | 単位数 | 2 | 必修・選択・展開 | 選択 |

### ■ 授業の目的

1. 情報のデジタル化や情報発信ネットワークの特性を理解させる。(知識・理解)
2. 表現やコミュニケーションにおいて、コンピュータなどを効果的に活用する能力を養う。(思考・判断・表現、技能)
3. 情報化の進展が社会に及ぼす影響を理解させ、情報社会に参加する上での望ましい態度を育成する。(関心・意欲・態度)

### ■ 授業計画

| 学期       | 授業の項目  | 内容  |
|----------|--|---|
| 1<br>学期  | 1. 情報機器の発達とデジタル化<br>① 復習<br>② 情報のデジタル化<br>文字・画像・動画・音声<br>③ デジタル情報の統合と表現<br>④ デジタル化の利点と問題点  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 文書作成ソフトの使い実習を復習する</li> <li>・ デジタル化・情報の統合について、以下の実習を通じて体験的に理解させる <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 画像と文字による表現 (ポスター) の分析・研究実習</li> <li>・ 画像編集ソフトを使ってメッセージポスター制作</li> <li>・ 取材を行い、インタビュー記事にまとめる実習</li> </ul> </li> <li>・ インターネット上のコミュニケーションの形態についてその特徴を知り、課題と対策について実習を通じて理解させる</li> <li>・ 知識をふまえた情報モラル標語を作成しコンクールに応募する</li> </ul> |
|          | 2. ネットワークで変わる社会<br>① ネットワークのしくみ  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ インターネット上の問題 (情報発信、マルウェア・パスワードなどセキュリティ対策) について理解させる</li> <li>・ 「アルゴリズム」・「Legoマインドストーム」を用い、プログラミングによる問題解決の実習を行う</li> </ul>   |
| 2<br>学期  | ② 共有とセキュリティ<br>③ プログラミング実習   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ マルチメディアを活用した表現について、以下の実習を通じて体験的に理解させる。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ CMの研究及び企画制作 (プレゼンテーションソフトの活用)</li> </ul> </li> <li>・ 制作体験をもとに知的財産権・著作権について理解させる。</li> <li>・ 問題解決の手順と方法について、グループプレゼンテーションの課題実習を通じて理解させる</li> </ul>  |
|          | 3. 表現とコミュニケーション<br>① マルチメディアを活用した表現<br>② プレゼンテーションによる表現  |   |
| 3<br>学期  | 4. 総合実習  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校紹介動画制作のプロジェクト学習を通じ、話し合い・企画・制作・表現といった力を身につけさせる</li> </ul>   |
|          | 5. 情報化社会を生きる   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 映像制作体験からTVなど映像というメディアを読み解くときのメディアリテラシーについて理解する</li> </ul>  |
| 評価の方法と割合 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 評価方法：定期試験は行わず、実習の中の下書き・企画書・レポート・発表・作品などに評価観点を設け、評価を行う。(生徒による相互評価も参考とする)</li> <li>● 割合：ワークシート・レポートの記入・発表・作品と授業参加態度で総合評価する</li> </ul> |   |
| 教科書・副教材等 | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 教科書：なし 適宜プリントを配布する</li> </ul>   |   |